

# 共同礼拝

2022年4月24日(日) 午前10時30分

司式 牧師 高橋和人

前 奏

招 詞 詩編 118編23～25節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 16編7～11節 (旧846)

コリントの信徒への手紙一

12章31b～13章7節(新317)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 187 (1)

説 教 「最高の道、愛」

牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 529 (1)

献 金

頌 栄 541

祝 禱

黙 禱

## 4月の祈り

主の十字架の苦しみと死によって与えられた恵みを受け止め、今も生ける復活の主イエス・キリストと共に生きる喜びと確かさを覚えて。

戦争の痛みに覆われている世界の嘆きを主が聞いてくださるよう。

戦火が早く止み人々の生活が回復されるように。  
弱い立場の人々や子どもたちが守られるように。

## 今日の祈り

教会総会が聖霊の導きを受け、主の御支配を表すことができるように。

コロナ禍が乗り越えられ、教会の歩みが力づけられ、回復に向かうことができるように。

「最高の道、愛」 姜 徑米

コリントの信徒への手紙一 12:31b～13:7

13章は「愛の賛歌」と呼ばれており、愛について集中的に語られています。12章で語ってきたのは、霊的な賜物、聖霊の賜物についてでした。教会の一人一人に、それぞれ違った賜物が聖霊によって与えられている、それらがあいまって、一つの「キリストの体」としての教会が成り立っているのだということが語られてきたのです。

そして様々な務めを果たすための賜物よりももっと大きな賜物がある、その「もっと大きな賜物」は「愛」です。熱心に求められるべき愛という賜物を、31節後半の言葉をもって語られていくのです。

この31節後半に、「最高の道」に注目したいと思います。最高の賜物を教えます、ではなくて、最高の道と言われているのです。愛は、他の賜物と並ぶ一つの賜物ではなくて、「道」なのです。道というのは、そこを歩いて目的地に行けるものです。ど

んなに素晴らしい賜物を持っていても、この道を通らなければ目的地には行けない、その賜物が生かされないのです。

1～3節が語っているのはそのことです。それぞれの節に、「愛がなければ」とあります。これは「わたしが愛を持っていなければ」という言葉です。愛を持っていなければ、どんなに優れた賜物を持っていても、何の役にも立たないと言われているのです。

パウロはこのように、愛こそが、あらゆる賜物が本当に生かされる道だと言っています。また、一見愛の行為と思われることが、実は愛なしになされることがあり得ることを指摘します。そこに、愛の重要さと、また難しさがあると言えるのです。その重要で、難しい愛とは、どのようなものなのか。そのことが、4～7節に語られているのです。

パウロも、そして私たちも、この愛に生きた方を知っています。それは主イエス・キリストです。ここに並べられていること一つ一つが、主イエス・キリストが私たちが愛するゆえにして下さったことです。

主イエス・キリストは、神様に背く罪人である私たちに対してどこまでも忍耐強くあられ、神の子としてのご自分の自由や権利を捨てて、私たちの罪を背負って十字架にかかって死んで下さいました。パウロも私たちも、この主イエス・キリストを通して神様の具体的な愛の中で生かされているのです。

\* 本日の午後の礼拝は総会のため休止します。

\* 教会学校 礼拝 9:00 説教 森本智子

\* 祈祷会 4月27日(水) 14:00